

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-289512

(43)Date of publication of application : 16.12.1987

(51)Int.Cl. A61K 7/32

(21)Application number : 51-134331 (71)Applicant : LION CORP

(22)Date of filing : 10.06.1986 (72)Inventor : CHIYOU TAMOKU
YAZAWA AKIRA
CHINNO TOSHIHIRO

(54) DEODORANT COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: A deodorant cosmetic, obtained by blending a silver salt and/or zinc, having improved deodorizing effect and capable of sustaining the effect.

CONSTITUTION: A deodorant cosmetic obtained by blending a silver salt of an organic acid and inorganic acid, particularly silver nitrate, silver lactate, silver acetate, silver propionate, silver ophendisulfonate, silver undecylenate or silver hexachlorophenate and/or zinc salt of an organic acid, particularly zinc ophendisulfonate or zinc undecylenate in an amount of 75wt%, preferably 0.01wt% silver salt and/or 725wt%, preferably 1W20wt% zinc salt. The above-mentioned cosmetic is particularly suitable as an antiperspirant cosmetics (aerosol antiperspirant or sticklike antiperspirant) having deodorant effect.

LEGAL STATUS [Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal] of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

④ 日本国特許庁 (J P)

⑤ 特許出願公開

⑥ 公開特許公報 (A)

昭62-289512

⑦ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑧ 公開 昭和62年(1987)12月16日

A 61 K 7/32

6971-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑨ 発明の名称 防臭化粧料

⑩ 特 願 昭61-134331

⑪ 出 願 昭61(1986)6月10日

⑫ 発 明 者 張 多 黙 仙台市片平2-1-1 東北大学工学部繊維製錬研究所内
⑬ 発 明 者 矢 澤 彬 仙台市片平2-1-1 東北大学工学部繊維製錬研究所内
⑭ 発 明 者 陳 野 敏 弘 市川市南八幡2-21-2-204
⑮ 出 願 人 ライオン株式会社 東京都墨田区本所1丁目3番7号
⑯ 代 理 人 弁理士 池浦 敏明

明 細 書

1. 発明の名称

防臭化粧料

2. 特許請求の範囲

- (1) 顔料及び/又は香料を配合したことを特徴とする防臭化粧料。
- (2) 顔料として、顔料顔、乳脂顔、酢酸顔、プロピオン顔、ウンデシンレン顔、パラフェノールスルホン顔、ヘキサクロロフェン顔の中から選ばれる一種又はそれ以上を用いる特許請求の範囲第1項記載の防臭化粧料。
- (3) 顔料として、パラフェノールスルホン顔、ウンデシンレン顔の中から選ばれる一種又はそれ以上を用いる特許請求の範囲第1項記載の防臭化粧料。
- (4) 香料有効成分を配合した特許請求の範囲第1項～第3項記載のいずれかの防臭化粧料。

3. 発明の詳細な説明

〔技術分野〕

本発明は防臭効果の持続性にすぐれた防臭化粧

料に関するものである。

〔従来技術〕

一般に、人間の身体から発する臭気は、もともと無臭である汗や皮脂が細菌によって分解されて生じる。特に腋の下や足の指間等では細菌が繁殖するのに好条件であるため、この部分から強い臭気を感じて悩んでいる人が非常に多く見受けられる。この様な臭気を抑え、快適な気分を与える防臭化粧料としては、細菌を殺すためのいかなる殺菌剤を配合するか、又は汗の分泌を防止する収れん性化合物を配合したもの、更に不快な臭気を遮断するため香料成分を配合したものなどがある。この場合、殺菌剤としては、塩化ベンザルコニウム、2,4,4'-トリクロロ-2'-ハイドロキシジフェニルエーテル、イソプロピルメチルフェニル、トリクロロカルバニリド、安息香酸等が用いられ、収れん性化合物としては、ハロゲン化アルミニウム、ヒドロキシハロゲン化アルミニウム、ハロゲン化ヒドロキシジアルコウム等が用いられる。しかし、この様な殺菌剤や、収れん性化

特開昭62-28512 (2)

合等、効果を含有する防臭化粧料は一時的な防臭効果はあるが、数日間もしくはそれ以上の期間効果を持続する点では、十分といえない。これは既に公知したこれらの化合物や香料が水溶液中容易に溶け込んでしまふ。その化粧料による防臭性を持続することができないからである。従って、従来使用しなければならず、体臭に悩む人々から、長い間をたつて防臭効果に優れた化粧料の出現が強く望まれている。

〔目 的〕

本発明は、この様な事柄の下になされたものであって、防臭効果に優れ、しかもその効果が持続する防臭化粧料を提供することを目的とする。

〔概 説〕

本発明者らは、前記目的を達成すべく種々研究を重ねた結果、酸塩や炭酸塩を配合することにより、防臭効果にすぐれ、かつその効果が長期間にわたって持続する化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

即ち、本発明によれば、酸塩及び/又は炭酸塩

酸、炭酸塩、界面活性剤等を配合することができ、ただし、酸塩を使用する場合、化粧料中でハロゲン化塩を形成するような組成は好ましくない。ハロゲン化塩は防臭効果をほとんど示さないからである。また、酸塩が金属鹽に酸化することもある。このため、化粧料中にはハロゲン化塩を使用しないとか、あるいはハロゲン化物や酸塩が腐蝕しない形で用いるとか、さらには光が当り金属鹽に酸化するのを防止するため不透明容器に入れて用いる等の工夫が必要である。

本発明の化粧料は、特に、防臭効果を備えた制汗化粧料として好適である。次に、この制汗化粧料について詳記する。

〔エアゾール制汗剤〕

本発明の化粧料は、エアゾール制汗剤として有効に用いられる。この制汗剤は、制汗剤有効成分と酸化噴射剤とを含有し、さらに本発明による酸塩及び/又は炭酸塩を含有するものである。この場合、制汗剤有効成分として、塩化アルミニウム、ヒドロキシ塩化アルミニウム、ヒドロ

キシル化アルミニウム、無水アルミニウム、ヒドロキシ塩化アルミニウムジヒドロキシ塩化アルミニウム、炭酸塩類、フェノールスルホン酸アルミニウム等の収れん作用を有する酸塩、あるいはこれらの酸塩を含有するグリコール系化合物やアミノ酸系化合物等が挙げられ、これらは単独又は2種以上の混合物として用いることができ、その配合量は、全組成物重量に対して0.2~10重量%、好ましくは0.5~5重量%とするのが良い。

本発明で用いる酸塩としては、有機酸及び無機酸の酸塩が用いられるが、特に、炭酸塩、乳酸鹽、酢酸鹽、プロピオン酸鹽、パルメトールスルホン酸鹽、ウンデシレン酸鹽、ヘキサデカノール酸鹽の中から選ばれた酸塩の使用が好ましい。また、炭酸塩としては、有機酸の酸塩が用いられるが、特に、パラフェノールスルホン酸鹽類、ウンデシレン酸鹽類の使用が好ましい。

本発明の防臭化粧料において、酸塩の使用割合は5重量%以下、好ましくは0.01~1重量%であり、炭酸塩の使用割合は25重量%以下、好ましくは1~20重量%である。

本発明の防臭化粧料は、酸化化粧料、パウダー化粧料、エアゾールパウダー化粧料、スチック化粧料等の種々の形態の化粧料として用いられる。酸塩類や炭酸塩は、粉末、粉末状等様々な形状でこれらの化粧料に添加される。更に、その使用目的に応じて、色料、香料、消臭剤、保湿剤

キシル化アルミニウム、無水アルミニウム、ヒドロキシ塩化アルミニウムジヒドロキシ塩化アルミニウム、炭酸塩類、フェノールスルホン酸アルミニウム等の収れん作用を有する酸塩、あるいはこれらの酸塩を含有するグリコール系化合物やアミノ酸系化合物等が挙げられ、これらは単独又は2種以上の混合物として用いることができ、その配合量は、全組成物重量に対して0.2~10重量%、好ましくは0.5~5重量%とするのが良い。

また、酸化噴射剤としては、トリクロロモノフルオロメタン、ジクロロジフルオロメタン、トリクロロトリフルオロメタン、酸化塩化ガス等が挙げられ、これらは単独又は2種以上の混合物として用いることができ、その配合量は、全組成物重量に対し、通常50~98重量%、特に80~98重量%とするのが良い。

さらに、エアゾール制汗剤には、制汗剤を含有させることができる。この場合、制汗剤としては、カルタ、カオリン、ベントナイト、シリカ、滑石、ボクサイト、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸

特開昭62-289512 (3)

カルシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸チタン、酸化マグネシウム等の無機粉体、シルク、ナイロン、ポリエチレン、ポリステレン、ポリメチルメタクリレート、ポリアクリル酸エステル等の有機粉体が挙げられ、これらは単独又は2種以上の混合物として用いることができ、その配合量は、全組成物重量に対して0.1〜10重量%、好ましくは0.5〜5重量%とするのが適当である。

エマルジョン剤には、その他、使用する補助成分、例えば、油分、界面活性剤、サイクロデキストリン等の包接化合物、ビタミン類、アミノ酸、グリチルリチン酸等の抗炎症剤、メントール等の清涼成分、色素、殺菌剤、香料等を適宜加えることができる。

〔ステック状制汗化粧料〕

本発明の化粧料は、ステック状制汗化粧料として有利に用いられる。ステック状制汗化粧料としては、カルナウバワックス等の水不溶性ワックスとシリルシラン酸イソプロピル等の疎水性有機化合物もしくは疎水性油状有機化合物、およびアルミニ

ウム収れん剤等の発汗防止活性を持つ疎水性有機化合物からなるもの等があるが、軟化温度及び/又は流動性をこれらのスティック状制汗化粧料に配合することにより本発明の化粧料を得ることができる。

本発明による特に好ましいスティック状制汗化粧料は、(イ)50℃〜110℃の融点を有するワックス類を8〜25重量%、好ましくは10〜25重量%、(ロ)25℃において10センチメートル以下の粘度を有する疎水性の油状有機化合物30〜70重量%、(ハ)無機粉体3〜20重量%、(ニ)粉末状制汗有効成分5〜30重量%のものである。この場合、ワックス類は単独又は混合物の形で用いることができる。疎水性油状有機化合物の具体例としては、例えば、ジカメチルシクロペンタンロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、ドデカメチルシクロヘキシルロキサン、ジメチルポリシロキサン及びパラフィン系炭化水素等の25℃で10センチメートル以下の粘度の疎水性の物質を挙げることができる。無機粉体としては、好ましくはタルクが用いられ

る。粉末状制汗有効成分としては、好ましくは収れん性のアルミニウム化合物やジルコニウム化合物であり、具体例として、ヒドロキシ酸化アルミニウム、ヒドロキシ酸化アルミニウム、アルミニウム/ジルコニウム/グリシン錯体(米国特許第3792033号)等を挙げることができる。これら成分は、スティック中に粉末の形態で分散させる。

さらに、このスティック状制汗化粧料には、この種の化粧料に用いられる他の成分を配合することもできる。このような任意成分として、界面活性剤、汗れ防止剤、整膚剤、ゲル化剤、充填剤、安定剤、抗酸化剤、香料、着色剤、香料、保存剤及び抗菌剤等を挙げることができる。

本発明によるエマルジョン状又はスティック状制汗化粧料においては、制汗有効成分は銀イオンと接触しないようにして配合するのが好ましいが、このためには、制汗化粧料中で銀塩及び制汗有効成分が架橋して結合することがないよう、水の混入を防止すればよい。

〔実施例〕

次に本発明を実施例によりさらに詳細に説明する。

実施例

表-1に示す成分組成の水溶性制汗化粧料を調製し、制汗効果とその持続性について下記の試験方法により評価した。その結果を表-1に示す。

なお、表-1に示した配合成分(1)〜(5)は次の通りである。

- (1) : 硫酸銀
- (2) : 乳酸銀
- (3) : 酸化ベンザルコニウム
- (4) : 2,4,4'-トリクロロ-2'-ハイドロキシジフェニールエーテル
- (5) : エタノール

バランス: 水

〔評価方法〕

(1) 制汗効果試験

被験者が強いと判定されたパネラー男15名、女15名の計30名で下記の試験を行った。

各パネラーの一方の腋下に試験物を塗布し、他方

卷一

成 分	割合 量 (%)	防炎効果 (30名中の 有効数)	防炎持続効果 (10名中の有効数)
11 酢酸鉛	2.8	23	6
12 プロピオン酸鉛	2.6	30	7
13 バリウム・カルシウム酸鉛	2.0	27	8
14 硝酸鉛	2.0	30	8
15 プラズマ・カルシウム酸鉛	2.0	25	5
16 ケンデシウム酸鉛	5.0	27	8
17 バリウム・カルシウム酸鉛	5.5		
18 プラズマ・カルシウム酸鉛	5.0	29	7
19 硝酸鉛・硝酸塩類	5.0	15	5

4-22

品名	品名	配合 量 (%)	効果効果 (30名中の 有効数)	効果持続効果 (10名作の有効数) 1週間後 2週間後
水	パラアミノフェニルスルホン酸塩	3		
魚	パラアミノフェニルスルホン酸塩	5	25	9 7
卵	ウリデキラン酸塩	3		
品	ウリデキラン酸塩	23	22	3 2
合計	計、並列値とも無差別		0	9 0

実施例 3

下記組成のスタック状制御化原料を調製し、その防炎効果と耐火持続効果を実施例1の場合と同様にして評価した。その結果を表-3に示す。

ヒドロキソ酸化アルミニウム	20%
タルク	5%
ステアリルアルコール	15%
酸化ヒマン酸	5%
パラフィンワックス(融点85℃)	1%
炭素	表-3
硫酸炭	表-3
燐粉	0.1%
ジブチルヒドロキシトルエン	0.1%
総炭素酸化含有	バランス (デカメチルシクロペンタジロキサン)

[illegible]

特開昭62-289512 (6)

(参 考)

手 続 補 正 書

昭和62年4月 1日

以上示した実験結果から明らかなように、樹脂又は/及び亜鉛塩を配合した本発明の化粧料は防臭効果とその持続性にすぐれていることがわかる。

特許庁長官 浜 田 明 雄 殿

1. 事件の表示

昭和61年特許願第134331号

2. 発明の名称

防臭化粧料

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 東京都墨田区本所一丁目3番7号

氏 名 (676) ライオン株式会社

代表者 小 林 孝 彦

4. 代 理 人 〒151

住 所 東京都渋谷区代々木1丁目53番10号

第一西館ビル113号

氏 名 (7450) 弁護士 池 田 敏 明

電話 (376) 2533 番

5. 補正命令の日付 自発

6. 補正により増加する発明の数 0

7. 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄

82.4.1

第三頁

8. 補正の内容

本願明細書中において以下の通り補正を行います。

(1) 第4頁第8行の「有機酸の銀塩」を、「有機酸の亜鉛塩」に訂正します。

(2) 第9頁第8行の「用いらる」を、「用いられる」に訂正します。

(3) 第13頁第8行の「ヒドロキシ塩化アルミニウム(2.0%)」の次に、「(クロロヒドロール ミクロドライ Behels社)」を加入します。

(4) 第15頁第5行の「ヒドロキシ塩化アルミニウム(2.0%)」の次に、「(クロロヒドロール ミクロドライ Behels社)」を加入します。

(5) 第17頁第2行の「の防臭」を、「その防臭」に訂正します。